

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	生後4か月までの乳児家庭全戸訪問事業の充実						掲載ページ	
							172	
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局
		43,979	千円	46,339	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課
子ども家庭局								
子育て支援課								

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	生後4か月までの乳児がいる家庭を訪問し、子育ての孤立化を防ぐために、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する必要な情報提供を行うとともに、支援が必要な家庭に対しては適切なサービス提供に結びつけることにより、地域のなかで子どもが健やかに育成できる環境整備を図ります。			活動実績	活動結果は下記のとおりです	
活動計画	訪問を継続実施し、訪問担当者に対する研修会を行うなど、事業の充実を図ります。訪問等で直接面接して情報を提供します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	専門職による訪問数		5,685 件	適切な訪問	5,855 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	全戸訪問により母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、専門職の訪問が必要なため指標に上げました。 (最終目標と最終年度)						
	(最終目標と最終年度)					順調	順調
(最終目標と最終年度)					やや遅れ		
(最終目標と最終年度)					遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	対象家庭に訪問した結果、81%は実際に面接できており、面接できなかった家庭に対しても、その後の乳児健診において支援を行っています。子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	地域の主任児童委員や専門職が実施しているため、これ以上のコスト削減は困難です。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
対象家庭に訪問した結果、81%は実際に面接できており、面接できなかった家庭に対しても、その後の乳児健診において支援を行っています。子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。今後も関係機関と連携し、事業を周知することおよび介入することで、より効果的な事業の推進を図ります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	乳幼児健診における問診項目の見直し							掲載ページ
								172
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局
		75	千円	0	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課
								子ども家庭局
								子育て支援課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか 乳幼児健診等における発達障害の早期発見の精度を上げ、標準化するため、受診票の問診項目の見直しを行ないます。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	母子保健調査研究事業（小児保健研究会）において、発達障害を早期に発見するための乳幼児健診項目について検討します。また、その結果を踏まえ、関係機関と協議します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標			【活動の状況】
	問診項目の見直しの推進（検討会の設置）		0 回	検討会の実施	1 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	乳幼児健診の項目を見直すことで、発達障害を早期に発見し、支援に繋がります。そのために医療関係者、大学関係者など専門家と検討会を実施します。 （最終目標と最終年度）						
（最終目標と最終年度）					順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害を適切に発見するための乳幼児健診の問診項目等について、母子保健調査事業の中で行っている研究結果等を踏まえながら関係機関と検討することが重要と考えています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	効果的に実施できるよう関係機関と連携する必要があります。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
発達障害の早期発見の精度を上げるため、小児保健研究会や関係機関と協議、検討を行い、健診時のマニュアルを見直します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	乳幼児発達相談指導事業(わいわい子育て相談)の拡充						掲載ページ		
							172		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		26,261	千円	28,117	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子育て支援課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	心身の発達が気になる乳幼児について、医師・臨床心理士・保育士等がチームで相談に応じ、保護者の育児不安に対応することで、発達障害等を早期に発見し、乳幼児の健全な発達を支援します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	親子を対象にした遊びや相談に応じる教室を実施し、子どもの発達を促すとともに、親の育児不安の軽減に繋がります。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	わいわい子育て相談の実施回数		104 回	168 回	105 回 62.5 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	発達に気になる子どもを早期に発見し、親子を支援するために相談体制の充実が必要です。 (最終目標と最終年度)						
	わいわい子育て相談の参加者数		349 件	増加	366 件	順調 やや遅れ 遅れ	順調
発達相談の中で気になる子どもを早期に発見し、支援するために相談体制の充実が必要です。 (最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害を早期に発見し支援することは、子どもの健やかな発育を促し、保護者の不安の軽減や様々な問題を予防することができます。早期発見及び早期支援体制の強化が求められていることから、回数の拡充や関係機関との連携を強化する等、事業の充実が必要です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	医療関係者等の専門職が実施していることから、これ以上のコスト削減は困難です。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
発達障害を早期に発見し支援することは、子どもの健やかな発育を促し、保護者の不安の軽減や様々な問題を予防することができます。発達に気になる乳幼児が増加傾向にあり、早期発見及び早期支援体制の強化が求められていることから、回数の拡充や関係機関との連携を強化する等、事業の充実が必要です。発達に気になる乳幼児を早期に支援するために、相談事業の拡充や連携体制について、関係機関と協議し、効果的な事業の推進を図ります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	障害児保育の充実						掲載ページ
							172
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		180,598 千円	239,502 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	通常保育での受け入れに加え、延長保育、一時保育を含めて統合保育の可能な障害のある子どもの受け入れを行います。また障害のある子どもの福祉の向上と、保護者の就労を支援するため、関係機関の協力のもと、統合保育の可能な重度の障害のある子どもを直営保育所で受け入れます。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	統合保育の可能な障害児を通常保育だけでなく、延長保育、一時保育での受け入れを行います。また、統合保育の可能な重度の障害児を直営保育所で受け入れます。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	通常保育における障害児の入所状況	157 施設 (100%)	158 施設	158 施設 100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	・通常保育で障害児の受け入れを全保育所で行います。 ・統合保育の可能な重度障害児の受け入れを直営保育所で行います。 (最終目標と最終年度) 全保育所(26年度)					
	特別保育事業における障害児の入所状況	(延長保育) 141 施設 (一時保育) 54	(延長保育) 143 施設 (一時保育) 58	(延長保育) 143 施設 (一時保育) 58 100.0 %	順調 やや遅れ 遅れ	順調
・保護者の仕事と子育ての両立支援を図るため、通常保育のみならず特別保育事業においても、全保育所で障害児の受け入れを行います。 (最終目標と最終年度) 全保育所(26年度)						

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。
		平成24年3月1日現在、104施設で336名の障害児を受け入れました。直営保育所では重度障害児10名を受け入れました。 障害の有無にかかわらず、一緒に保育し、ともに育ち生活する中で、相互の健全な育成を図ることが出来ます。保育所での保育が可能な障害のある子どもを積極的に受け入れており、なおかつ就労を希望する保護者も増加すると思われるため、障害児保育のニーズは高まると予想されます。有効性は、高いと思われます。
		現在は障害児数に応じた職員配置を、常勤やパートで行っており効率性は高いと考えます。これ以上のコスト削減は困難と考えます。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
本事業は、児童の福祉向上に資するところも大きく、保護者の就労支援、子育て支援を図る上で施策に対する有効性も高く、今後も児童の処遇改善や保育所の資質向上を図りながら着実に取り組むことが適当だと考えます。今後も継続して事業を実施します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	親子通園クラスの設置						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		1,276	千円	2,395	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	直営保育所へ新たに「親子通園クラス」を設置し、発達の気になる子どもを保護者とともに受け入れ、保育所での遊びや体験、相談を通じて継続した支援を行います。また、直営保育所と保健、医療、福祉の関係機関が連携しながら、児童の保育所、幼稚園などへの移行を支援します。					
活動計画	今年度は新たに、小倉北区の東篠崎保育所で親子通園クラスを設置し、事業を開始します。						活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	親子通園クラスの設置施設数	1 施設	2 施設	2 施設	100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	親子通園クラスを設置し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、遊びや相談等を通じて、保育所や幼稚園、療育機関等への移行支援を行います。 （最終目標と最終年度）平成26年度までに7か所						
						順調	順調
（最終目標と最終年度）					やや遅れ 遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	新たに小倉北区の東篠崎保育所において親子通園クラスを設置し、遊びの提供や保護者との懇談を行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対し、継続した支援を行いました。黒崎保育所はのべ73組、東篠崎保育所はのべ31組の親子が利用しました。 通園利用世帯に対して実施したアンケートで、利用者の満足度は100%でした。また、次年度の移行先が決定した世帯も67%を超え、移行支援としての成果も出ています。 全国的にも例のない事業です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	直営保育所の経営資源を活用することでコストを抑えるとともに、利用料として1世帯あたり月に4,000円を徴収しています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
実施している2か所について検証していきながら、関係機関との連携、事業のPRを行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対して、継続した支援を行います。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備（保育所等）						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		-	千円	-	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	保育所や幼稚園、知的障害児通園施設、入所施設、特別支援学校等で、市民が気軽に相談できる窓口を設けられないか検討します。その体制を作るため、障害児療育の専門機関による技術的支援を行うなど、保育所等の職員の専門性の向上を図ります。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	市民の相談窓口設定の検討を行い、保育所等の職員の専門性の向上を図ります。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】		
	相談対応施設数	157 施設 (100%)	158 施設	158 施設	100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	全保育所（158施設）で相談に対応していきます。 （最終目標と最終年度）							順調 やや遅れ 遅れ
（最終目標と最終年度）								

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  療育の専門機関から支援事業や保育課や社会福祉研修所主催で相談体制づくりの研修を実施しました。保育所は身近な施設で相談がしやすく、発達相談の早期発見につながります。また乳児から就学前までの様々な子どもがいるので、実際の援助の様子を見ることができ、保護者にとって大きな支援になります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  保育所の機能を有効利用することで予算をかけずに実施しており、経済性・効率性は高いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
今後とも職員の専門性を高め、相談窓口を充実させ障害のある子どもの早期発見や支援につなげたいと思います。職員の専門性を高めるための研修会を実施します。また、育児に関する相談に対応していますが、障害に関する相談は少ないため、育児相談の一環としてPR活動を実施します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備（保育所等）						掲載ページ
							173
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		千円	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	子ども総合センターは、子どもに関するあらゆる相談、指導、心理・障害の判定、一時保護等を行うとともに、児童虐待、非行、不登校など立ち直り支援が必要な子どもに対応するため、関係機関と連携し子どもや保護者への支援するなど、法に基づく児童福祉の専門的行政機関として運営します。			活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	相談者などへの適切な対応を行います。				
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	児童相談受付件数	4,683 件		4,628 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調
	児童に関するあらゆる問題について、相談に応じる機関としての活動を最も端的に示す指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）				
					やや遅れ
	（最終目標と最終年度）			遅れ	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童相談受付件数は、前年度並みに推移しており、相談者に適切な対応が行えています。児童に関するあらゆる相談に応じるとともに、児童及び保護者等を支援する活動を推進しており、有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果を上げるべく、計画的かつ効率的な予算執行に努めて、運営しています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
<p>子ども総合センター（児童相談所）は、児童福祉法で政令指定都市に設置が義務付けられた機関です。今後も児童福祉の専門的行政機関として、本事業を様々な関係機関と連携しながら、より効果、効率的に推進し、子どもや保護者など相談者に適切な支援等が行えるよう着実な取組みを進めていきます。</p>

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備(保育所等)						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,769	千円	3,099	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保育所や幼稚園、知的通園施設、入所施設、特別支援学校等で市民が気軽に相談できるよう体制を整えるため、障害児療育専門機関による職員への技術的支援を行います。			活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動計画	今年度も社会福祉法人に委託し、保育所等へ障害児療育の専門職員を派遣します。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	施設一般指導事業実施件数	177 件		151 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)				大変順調
(最終目標と最終年度)				順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	順調に事業を実施しました。総合療育センター等の専門スタッフによる保育所等職員の育成は、より多くの相談者の福祉向上、問題解決を効果的に実施することができます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	指導を実施しているのは障害福祉に関して知識・経験を十分に有する職員であり、他の職員では同じ成果を得ることができません。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
本事業は保育所等の職員の資質向上に有効であるため、今後とも継続的に実施します。



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	専門機関との連携による保育所での発達支援の充実						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		—	千円	—	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	保育所と、「子ども総合センター」「総合療育センター」など専門機関との連携を強め、保育所に通うLD、ADHD、高機能自閉症のある子どもなどへの支援の拡充を図ります。特に今後の課題として、保育所における対応のあり方、専門機関との役割分担、保護者への支援のあり方等について検討を深め、支援に取り組みます。				活動実績	個別支援計画を作成し、障害児とその保護者支援を行う。 職員の資質向上のための取り組み ・研修の充実 ・施設見学・実習の実施	
活動計画	専門機関と連携して、発達障害児やその保護者への支援に取り組みます。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	専門機関と連携した発達障害児の支援					大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	子ども総合センター・総合療育センター・障害福祉センター等専門機関と連携し、発達障害児の支援の拡充を図ります。  （最終目標と最終年度）							
	保護者支援の取り組み					順調	順調	
専門機関などの支援を受けながら、個別の支援計画を作成し、これを基に保育所と家庭がそれぞれの生活状況を伝え合うことで、共理解を深め、保護者の悩みなどを支えます。  （最終目標と最終年度）					やや遅れ 遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	子どもの発達相談や保育への個別支援、研修などを通して、支援に取り組みました。一人ひとりの障害はさまざまであり、その状態も多様であるので、障害のある子どもの保育にあたっては、専門機関と連携する機会を多く持つことが重要で、有効性は高いと考えられます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市の規定に基づく専門講師や既存施設を活用し、合理的に実施していきます。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
今後とも専門機関との連携を深め、保育所における対応のあり方など研修を通して、発達障害のある子どもへの支援の充実を図ります。関係機関との連携を図ると共に、保育士を対象に発達障害への理解を深め、支援できるよう研修会を実施します。また、発達障害児に関わる他局と連携し、職員間での交流を図り、一環した支援を行える体制作りに取り組みます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	総合療育センター等の専門スタッフの派遣						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		67,706	千円	72,114	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	保育所や幼稚園、放課後児童クラブ等に「総合療育センター」や「発達障害者支援センター」から専門スタッフを派遣し、指導・助言を行うとともに、保育士等の職員研修を充実することで、障害のある子どもの特性やかかわり方の理解を促進します。				活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行います。							
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績 (達成率)		【活動の状況】	
	発達障害者支援センター及び地域支援室の指導実施件数		191 件	-	163 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)						順調	
					遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	指導件数は毎年増加し、本事業利用者を順調に伸ばしています。総合療育センターは、本市の障害児療育・支援の中核施設であり、また、総合療育センター等の専門スタッフによる保育所等職員の育成は、より多くの相談者の福祉向上、問題解決を効果的に実施することができることから市民の総合療育センターの機能充実に対する期待は大きいと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	指導を実施しているのは障害福祉に関して知識・経験を十分に有する職員であり、他の職員では同じ成果を得ることができません。また、総合療育センターは指定管理者制度を導入し、経済的・効率的な運営を行っております。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
保育所や幼稚園などにおいても障害のある子どもが在籍しており、保育所等の職員の資質向上が必要であるため、専門スタッフによる指導事業引き続き実施します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	総合療育センターの機能の強化						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,769	千円	3,099	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	医師をはじめ臨床心理士などの専門スタッフの充実等を図るとともに、「総合療育センター」の地域支援室による地域の保育所、幼稚園や通園施設等への支援の強化や市西部地区の障害のある子どもの支援について検討します。（総合療育センターは指定管理者が運営）			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	医師確保に向けて大学医局への働きかけ等、必要な支援を行うとともに、機能強化に向けた取組みを継続します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】	
	施設一般指導事業実施件数		177 件		151 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児（者）の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）						
						順調	順調
（最終目標と最終年度）					やや遅れ 遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	医師確保に向けて、大学医局への働きかけ等必要な支援を行っています。また、指導事業の利用者についても順調に増加しています。総合療育センターは、本市の障害児療育・支援の中核施設であり、また、総合療育センターなどの専門スタッフによる保育所等職員の育成は、より多くの相談者の福祉向上、問題解決を効果的に実施することができることから市民の総合療育センターの機能充実に対する期待は大きいと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	指導を実施しているのは障害福祉に関して知識・経験を十分に有する職員であり、他の職員では同じ成果を得ることができません。また、総合療育センターは、指定管理者制度を導入し、経済的・効率的な運営を行っています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
総合療育センターは、本市の障害児療育・支援の中核施設であり、機能強化に向けた取組みは今後も必要と考えます。また、指導事業においても、保育所等の職員の資質向上に有効であるため、今後とも継続的に実施します。さらに、総合療育センター再整備に向けた検討を行います。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	医療機関との連携強化						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		814	千円	936	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	医療従事者を対象とした研修会などを実施し、発達障害に対する理解を促進します。			活動実績 活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	医療従事者のニーズに留意しながら、発達障害児・者の診療に関する研修会などを開催します。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	研修の受講者数		51 人		70 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	発達障害の理解を促進するには、医療従事者が研修を受講することが必要であるため、「研修の受講者数」を活動指標として掲げました。 （平成23年度は原則として、前年度以上を計画しています） （最終目標と最終年度）					
						大変順調
					順調 やや遅れ	
					遅れ	順調

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	前年度実績を上回りました。また、アンケート結果によると、受講者には高い満足を得ています。本事業を実施することで、発達障害に対する理解を深め、発達障害の診断等を実施できる医療機関が増加するとともに、発達障害者支援センターとの連携強化を図ることができるため、効果は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は、発達障害に関する高い専門知識や経験を積んだ事業者者に委託しており、経済性及び効率性に配慮した事業展開を図っています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
医療の現場においても、発達障害者に適した対応が求められていることから、今後とも継続して実施します。今後とも、研修の内容を充実し、受講者の満足を得られるような研修とします。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	特別支援学校のセンター的機能の整備						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		0	千円	6,600	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	特別な支援が必要な幼児児童生徒の様々な課題解決のため、拠点となる特別支援学校に、（仮称）特別支援相談室を置き、他の特別支援学校や関係機関と連携しながら、地域の小・中学校等への助言援助を行います。			活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	特別支援相談室の設置について、特別支援学校の総合的な整備の検討と並行して行っていきます。（市が直接実施）				
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	保育所・幼稚園・小中学校等への助言援助	173 校 園	201 校 園	189 校 園	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	特別支援学校が教育相談を行ったり、関係機関と連携したりして、保育所・幼稚園、小・中学校等への助言援助を行います。  （最終目標と最終年度）25年度 201校園			94.0 %	
	特別支援相談室の設置	0 校	校	0 校	順調 やや遅れ
（仮称）特別支援相談室を設置することで、地域の小・中学校等の相談支援体制を充実します  （最終目標と最終年度）25年度 3校	%			遅れ	

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  市内の園、小・中学校の約9割が特別支援学校のセンター的機能を活用しています。しかし、全国的に特別支援学校の児童生徒数が増加傾向にあり、教室数の不足が続いているため特別支援学校内の特別支援相談室の設置計画が滞っている状況にあります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  現在文部科学省の推進事業の中で行っていますが、今後も幼、小・中等では必要度が高いことが予測されるため、費用対効果は高いといえます。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
<p>今後は、特別な支援を必要とする就学前幼児の小中学校へのスムーズな移行ができるよう支援の内容や方法を見直し、小中学校が主体的に移行の支援が行えるようにする予定です。また、特別支援相談室の設置については、その中核となる特別支援教育相談センターの機能を強化することで今後の対応を行っていく予定です。</p>

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	新生児聴覚検査事業						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		13924	千円	14255	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子育て支援課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	聴覚の障害を早期に発見し療育を開始することで、コミュニケーション形成や言語発達に効果が得られるため、新生児に対して行う聴覚検査費用の一部を助成します。また、検査で聴覚障害が発見された場合には、早期療育に取り組むための支援を行います。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	聴覚の異常を早期に発見し支援することで、言語発達に効果があることから、関係機関と連携を図りながら今後も事業を継続します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】	
	聴覚検査実施件数		6,771 件	適切な実施	6,815 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	早期に発見することで早期療育につながることから、聴覚検査は必要です。 （最終目標と最終年度）						
						順調	順調
（最終目標と最終年度）					やや遅れ 遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年度は、新生児6,815人が検査を受けており、その結果、精密検査が必要な乳児に対して、保健師等が訪問などを実施してフォローアップを行っています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	聴覚の異常を早期に発見するための検査として重要です。医療機関で実施しているため、コストの削減は困難です。聴覚の異常を早期に発見し早期療育に繋げることは、言語の発達に効果があることから、事業の実施は重要です。また、市が行うことで、地域の保健師と関係機関が連携が可能となり、効果的な継続支援に繋がります。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
聴覚の異常を早期に発見し支援することで、言語発達に効果があるため今後も事業を継続します。また、今後も関係機関と連携を図りながら、事業を推進していきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	北九州市障害者地域生活支援センターの運営						掲載ページ
							174
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		96,124 千円	116,120 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	障害者相談支援事業を実施する「北九州市障害者地域生活支援センター」（ウェルとばたに設置）の運営を北九州市障害者相談支援事業協会に委託して、障害者及びその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や権利擁護のための必要な援助を行うことにより、障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになります。			活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動計画	本事業は、障害児（者）が日常生活を安心して送り、地域で暮らしていくために必要不可欠の事業です。また、相談内容が専門化・複雑化する傾向にあるため、今後は、より効率的な相談支援体制の構築を検討する必要があります。				
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	障害者地域生活支援センターの相談件数	12,188 件		15,294 件	大変順調
	障害児（者）が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようにするため、障害者地域生活支援センターが障害児（者）やその家族等からの相談に応じ、必要な支援を行います。 （最終目標と最終年度）平成29年度 43,669件				
	障害者地域生活支援センターの設置数	1 箇所		1 箇所	順調 やや遅れ 遅れ
障害児（者）が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようにするため、障害者地域生活支援センターが各区役所窓口との連携を強化し、身体・知的・精神の各障害に対応した適切な相談体制を整備する必要があります。 （最終目標と最終年度）					

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 HPやチラシ、福祉ガイドへの掲載などにより、継続的に障害者地域生活支援センターの広報を行なうことで、知名度を上げることができ、相談件数も前年度より増加させることができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 障害児（者）及びその家族に対する相談支援は、基本的には職員が直接行うものですが、業務の簡素化をはかるため、専門家のいる障害者相談支援事業協会に委託し、迅速な問題解決を図っています。しかし、障害者等からの相談内容が専門化・複雑化する傾向にあるため、今後は、より効率的な相談支援体制の構築を検討する必要があります。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
北九州市障害者地域生活支援センターを機能強化し、基幹相談支援センターとして再整備を行い、相談窓口の一元化を図ることで、相談者の利便性を向上させます。 併せて、出前相談など丁寧な相談支援方法をとることにより、障害のある人が自立した日常生活や社会生活を営むことができますようにします。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	おもちゃライブラリーの運営						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		776	千円	1,066	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	障害児の障害程度・種別に応じ、療育と教育の一環として、おもちゃを通じて、身体的・精神的発達を促すため、おもちゃの貸出、研究及び相談を行います。			活動実績 活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	東館、西館、と2ヶ所の分館で、おもちゃの貸し出し等を行います。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	おもちゃの貸出点数		411 件/月	-	381 件/月	大変順調
	「おもちゃの貸出点数」の増加が、利用者の満足度の高い事業である判断基準と考えられることから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）					
（最終目標と最終年度）					順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	積極的な広報活動により、順調におもちゃの貸出点数が推移しています。多くの障害児等が当該事業により、身体的・精神的な発達を促すことができたことと好評を得ています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	おもちゃライブラリーの運営をボランティア団体に委託する等可能な限り経費の削減を行っており、経済的・効率的な運営を行っています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
より多くの障害児等がおもちゃを通して、身体的・精神的な発達ができるように、積極的な広報活動により当該事業の利用促進を図ります。広報活動等を積極的に行い、利用促進を図ります。 平成24年度に北九州市おもちゃライブラリー設立30周年を迎えるため、記念のシンポジウムを開催予定です。



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	特別支援教育相談センターにおける相談事業						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		21,462	千円	30,399	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	特別な支援が必要な幼児児童生徒や、その保護者、学校等への専門的な支援を行い、全市的な相談支援体制の充実を目指します。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	巡回相談に医療関係等の専門家の同行を工夫するなど、効果的な相談を行います。（市が直接実施）							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	教育相談人数（実数）		369 人	300 人	378 人	126.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	障害の理解や学校生活等での支援について保護者や教職員と相談ができるシステムの中で、課題が解決できるよう教育相談の充実を図ります。 （最終目標と最終年度）25年 300人							
	巡回相談のべ回数		270 回	300 回	392 回	130.7 %	順調 やや遅れ 遅れ	大変順調
学校等を訪問し、個別の教育支援計画の作成等について教職員に助言し、必要に応じて医療機関等の専門家チームと連携できるシステムの中で、巡回相談の充実を図ります。 （最終目標と最終年度）25年 300回								

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	就学相談のシステムを改善したことで増加した申込みへの対応がスムーズにできました。教育相談と巡回相談は、実施人数、実施学校数、実施時間数といずれも十分な成果があり、学校・園にとって手厚い支援となっています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	教育相談や巡回相談を申し込む保護者や学校は多く、相談件数が増加しているため、費用対効果は高いといえます。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
相談員を公募し、相談員の待遇改善を行い教育相談の充実を図ります。巡回相談に医療機関等の専門家の同行を工夫する。また必要に応じて今年度配置した臨床心理士の資格を有する専門相談員を活用することで充実を図ります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	特別支援教育を行う場の整備						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		207,628	千円	316,500	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえながら、特別支援教育を行う場の整備を行います。				活動実績	複数障害種を対象とする総合特別支援学校の開校に向け、建設用地を取得するとともに、整備に関する調査を実施するなど、確実に前進しています。新設校の用地を福岡県から無償にて取得しました。7校17台のスクールバスのうち、予定通り、2校6台を民間委託により運行しました。	
活動計画		特別支援学級の設置校は25年度までに120校、通級指導教室は全区に設置することを目標としているため、22年度も状況を見ながら目標達成まで継続していきます。（市が直接実施）新設校の建設用地を取得します。（市が直接実施）東部地域における特別支援学校の整備に関する調査を民間委託により実施します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	特別支援学級の設置校数		102 校	100 校	107 校 107.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえながら、特別支援学級設置校数を73校から120校に増すことを目標としています。 （最終目標と最終年度）25年度 120校							
	通級指導教室の設置区		6 区	6 区	6 区 100.0 %	順調 やや遅れ 遅れ	大変順調	
児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえながら、通級指導教室を全区に設置することを目標としています。 （最終目標と最終年度）								

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成22年度に特別支援学級の設置校数は、102校にであったのに対し、平成23年度は、107校に増級することができています。達成率は、100%を超えました。建設候補地3案の中から、1番の適地である旧門司商業高校跡地を取得することができました。また、特別支援学校の新設に向けて、有用な調査を実施することができました。スクールバスの運行委託について、平成22年度の試行的な入札結果を踏まえ、平成23年度は2校6台の入札を計画し、予定どおり実施しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市民の特別支援学級の新設に対するニーズは高く、費用対効果が高いといえます。土地の取得については、福岡県との粘り強い交渉の結果、無償で取得することができました。特別支援教育に関する専門性を有する福岡教育大学に調査委託することで、有用な調査報告書を得ることができました。市交通局に特命で委託していたスクールバスの運行について、入札を実施したことにより、競争性、効率性が図られました。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
総合特別支援学校の平成28年4月開校を目指し、平成24年度中に基本計画を策定し、引き続き平成25年度末までに基本設計・実施設計を行います。その後、平成26年から平成27年度に校舎建設を行います。 平成24年度は、22年度、23年度の入札結果を踏まえ、上記課題を検証・整理し、平成25年度以降は段階的に入札導入校を拡大します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	特別支援教育を推進する人の配置						掲載ページ		
							175		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		86,754	千円	131,735	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	障害のある幼児児童の適切な充実を図るため、特別支援教育支援員の配置や外部人材の活用を行います。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	特別支援教育を推進する人の配置に関しては、緊急度の高い状況が続くことが予測されます。特別支援学級補助（市費講師）の配置を検討するなど、引き続き人の配置を継続して行います。（市が直接実施）							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	特別支援教育補助講師の配置校数（特別支援学級補助講師を含む）		48 校	33 校	63 校		大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	通常の学級及び特別支援学級等における特別支援教育の充実を目指すため、学校の実情に応じて特別支援教育補助講師を配置します。 （最終目標と最終年度）				190.9 %			
	特別支援教育介助員の配置校数		12 校	13 校	13 校		順調 やや遅れ	大変順調
通常の学級に肢体不自由の児童生徒が在籍する小・中学校に対して、特別支援教育介助員を配置し、学習面や生活面での介助を行います。 （最終目標と最終年度）		100.0 %			遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童生徒数がおおむね5人以上で必要な学級に対し、特別支援学級補助講師を配置することができました。また、特別支援介助員も必要に応じて、配置ができており、23年度は、13名の配置ができ、22年度より1名増の配置ができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	学校・園からの緊急度が高く費用対効果は大変高いものがあります。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
今後も、小・中学校の特別支援教育推進のため必要に応じて人の配置を行う予定です。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	特別支援教育の理解啓発						掲載ページ		
							175		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		2,849	千円	3,711	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画					【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	保護者や市民、関係機関等に、障害のある子どもたちや特別新教育について理解が深まるようにします。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	今後も内容を精査し積極的に市民への理解・啓発を行います。（市が直接実施）								
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績		目標		実績（達成率）		【活動の状況】
	理解啓発資料刊行数		4 刊行		5 刊行		4 刊行		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調
	保護者向けのリーフレット「通常学級における特別支援教育」等、特に市民・保護者への理解啓発の充実に努めます。 (最終目標と最終年度) 25年度 5刊行						80.0 %		
	公開講座参加人数		136 人		100 人		179 人		順調 やや遅れ 遅れ
幼稚園・保育所・小学校の教職員向けの公開講座を開催し、障害のある子どもの小学校へのスムーズな移行を目指します。 (最終目標と最終年度) 毎年度100人以上						179.0 %			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	23年度は理解啓発資料を4種類刊行し、公開講座では、179人が参加しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ニーズに対応できる発刊物を作成する必要があり、費用対効果は高いと思います。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
<p>今後は、ホームページの充実など市民への理解啓発を積極的に行う予定です。</p>